

+++++

「植物と人々の博物館メールマガジン」 第 67 号 2020 年 6 月 7 日発行

+++++

朝早く人気薄い頃に、陽いずる野川沿いを歩き、ここの美しい花々の写真を撮って、皆様にお贈りします。6 月は紫陽花と百合が多様な花色の種や品種を勢揃いさせています。

[www.millemplific.net/weedlife/flowers.html](http://www.millemplific.net/weedlife/flowers.html)

辛いときに野川のほとりを歩くと、今はとりわけ、生きていてよかったと心も体も感じます。花壇に植えられた花々から住んでいる人々の美しい心根が感じられるからです。ここら辺のはげなどの自然的景観は『武蔵野夫人』（大岡昌平 1950）や『我が少女 A』（高村薫 2019）の舞台です。

まだ、小菅の畑に野良仕事に行けず、自宅キッチンガーデンでささやかな雑穀や野菜作りをしています。一本鎖 RNA ヴァイラス Covid19 の流行が過ぎ去って、自由に解放されたいですね。皆様もお大事にお過ごしください。

## ○お知らせ

1. 森とむらの図書室藤野分室は閉館し、原沢文庫は小菅村の植物と人々の博物館に戻しました。黒澤さんと宮本さんが現地作業をしてくださいました。東京からは手伝いには行けずに、お世話をおかけしました。
2. 植物と人々の博物館をめぐるいくつかの会の在り方が個別に再検討されています。ある程度の事情や方向が見えて来ましたら、報告します。

## ○予定

### 1. 植物と人々の博物館

- 1) 開館・作業予定日：2020 年 6 月はヴァイラス対策のため休館します。
- 2) 雑穀の種子継：小菅の畑には行けませんので、秋子さんが種継をしてくださいます。小金井でも、プランタで栽培して種継をしておきます。生育状況はホームページでお見せしています。

[www.millemplific.net/weedlife/flowers.html](http://www.millemplific.net/weedlife/flowers.html)

- 3) 民族植物学ノオト： 第 14 号に、植物と人々に関する随筆など、ご寄稿を歓迎します。電子出版ですからカラー写真も大丈夫です。年内にご原稿を頂ければ嬉しいです。

内容は著者の責任において自由であり、その評価は読者がするものと考えていますので、編集者は原則として戴いた原稿の体裁を揃えるだけです。今号に、編集子は山村について分析、熟考したエッセイ 2 編を載せる予定です。

これまでのすべての記事 pdf は植物と人々の博物館ホームページ（下記：ミュージアムグッズ）で読めます。国会図書館にも収録されています。バックナンバーは僅少ですが、希望者に差し上げます。

メールマガジンもすべて記録してあります。 [www.ppmusee.org/goods.html](http://www.ppmusee.org/goods.html)

- 4) 電子書籍：植物と人々の博物館ホームページ（ミュージアムグッズ）に電子書籍の項で読めます。

『雪虫』降矢静夫俳句集～甲武境の村・西原に生きて（1998）：

ミュージアム・グッズに pdf 掲載の句集は降矢静夫師（俳号光岑）によるものです。降矢さんの雑穀栽培を通じた人生哲学を深く学ぶために書簡および対談テープ（木俣宛約 300 通、20 本余）もすべてデータベース化作業を進めており、『山村農人の教養』としてまとめます。また、とても良い農事記録なので、個人情報削除して公開予定です。

『雑穀の民族植物学—インド亜大陸の農山村から』『日本雑穀のむら』は一部公開、改訂しています。

『第四紀植物』および“Essentials of Ethnobotany”は非公開で書き進めていますが、夏までには一部公開します。

## 5) 森とむらの図書室

寄贈冊子：お米の勉強会会報、クリンネス、現代農業、うかたま、季刊地域、グリーンもあ、グリーン・ウォッチなどをありがたく頂いています。会員雑誌：雑穀研究、環境文明 21 会報（学協会は退会しました）。

今月の推薦図書：

- ① 心の構造進化について；『アシュラ』と『The Moon』（ジョージ秋山）、『鬼滅の刃』（吾峠呼世晴～2020）、『心に毒をもつ人たち』（B. Stamateas 2008）、『良心をもたない人たち』（M. Stout 2005）。『田舎暮らしの教科書』（清泉亮 2018）。
- ② 勸農について；『陶淵明全集』、『人口論』（マルサス）。再読していた頃に、ジョージ秋山は彼岸に旅立たれたことを後で知りました。『浮浪雲』も含めて影響を受け、感謝と哀悼の意を表します。

## 2. 雑穀街道普及会：

遠くアフリカなどから極東にまで伝播してきて、縄文後期以降、この島嶼に住む人々の命の糧であった雑穀、日本における伝統的な雑穀栽培は今にもいよいよ絶滅しそうな状況にあります。雑穀農耕文化複合は日本の山村が世界に誇る生きた文化財として継承すべきです。

雑穀街道を FAO 世界農業遺産に登録申請する提案普及を続けます。広い心をもって、個人も地域社会も全国へ、さらに世界の起源の地にまで街道を繋げて行ってほしいです。2023 年は国際雑穀年になります。

ぜひ、賛同者リストに加わって下さり、提案が広がるようにご援助くださいますよう、世界、全国各地からのご連絡を宜しく願います。

\* 下記ホームページに活動の現況や関連資料を順次更新していきます。

<http://www.milletimplic.net/milletworld/millstr.html>

なお、45 年間、調査研究してきた『日本雑穀のむら』第 3 章関東地方・第 4 章関東山地で、雑穀街道地域の調査研究の成果（1974～2017）をまとめてあります。第 5 章中部地方を整理しています。

<http://www.milletimplic.net/milletworld/milletn/jnmpmilvil.html>

○ お知らせ 関心のある団体から

家族の食べ物は自分たちで得ること（生業）が原則で、足りない食べ物を分けていただいていること（農林漁業）に感謝したいです。すべて消費、廃棄だけでは、生き物の文明、素のままの美しい暮らしには添いません。

これからは一層厳しい時代に入るのでしょうから、家族を守るために本気で心して自給知足の努力や食料備蓄を心掛ける必要があると思います。専任研究員は、日本国憲法に環境原理、生業の自由、食料主権などを明文化する提案をしています。国民・市民は自分たちを守るための条文を憲法に明記するように考える必要があります。

既にいくつかの国々では明文化されています。

**トランジション・ジャパン**

ご関心の方は参加ください。エコミュージアム日本村（トランジション小菅）もネットワークに参加しています。

また、研究員はトランジション小金井（TTK）の会員でもあります。

**家族農林漁業プラットフォーム・ジャパン（国連家族農業の10年）**

ご関心の方は是非ご入会ください。研究員個人として賛同し、会員になり、ホームページに意見を掲載していただいています。

農水省基本方針改訂へのパブリックコメントにも掲載されています。

<https://www.sffnj.net/single-post/2019/05/01/voice-mikio-kimata>

連絡先は下記です。

E-mail: [info@ffpj.org](mailto:info@ffpj.org) URL: <https://www.ffpj.org>

Facebook: <https://www.facebook.com/ffpj2019/> Twitter: [@FFPJ2019](https://twitter.com/FFPJ2019)

~~~~~

自然文化誌研究会（東京都日野市）：代表 中込卓男、副代表 中込貴芳（東京）、小川泰彦（埼玉）

ミューゼス研究会／トランジション小菅（山梨県小菅村）：代表 青柳諭、副代表 亀井雄次

植物と人々の博物館（山梨県小菅村）：館長 木下善晴

日本村塾生・研究員：木俣美樹男（東京）、西村俊（石川）、藤盛礼恵（千葉）、川上香（長野）ほか

雑穀街道普及会 <http://www.milletimplic.net/milletworld/millstr.html>

事務局長：黒澤友彦（山梨県小菅村） [npo-inch@wine.plala.or.jp](mailto:npo-inch@wine.plala.or.jp)

公式 HP：自然文化誌研究会 <http://www2.plala.or.jp/npo-inch/>

植物と人々の博物館 <http://www.ppmusee.org/>

メールマガジン発行：木俣美樹男 [kibi20kijin@yahoo.co.jp](mailto:kibi20kijin@yahoo.co.jp)

雑穀・民族植物学関係の個人 HP:生き物の文明への黙示録

<http://www.milletimplic.net/>

~~~~~

木俣美樹男 Mikio KIMATA [kibi20kijin@yahoo.co.jp](mailto:kibi20kijin@yahoo.co.jp)

植物と人々の博物館／日本村塾 研究員塾生

Nihonmura College for Environmental Studies, Plants and People Museum

公式 HP : <http://www.ppmusee.org>

個人 HP: <http://www.milletimplic.net>